

各関係機関・団体の長 殿

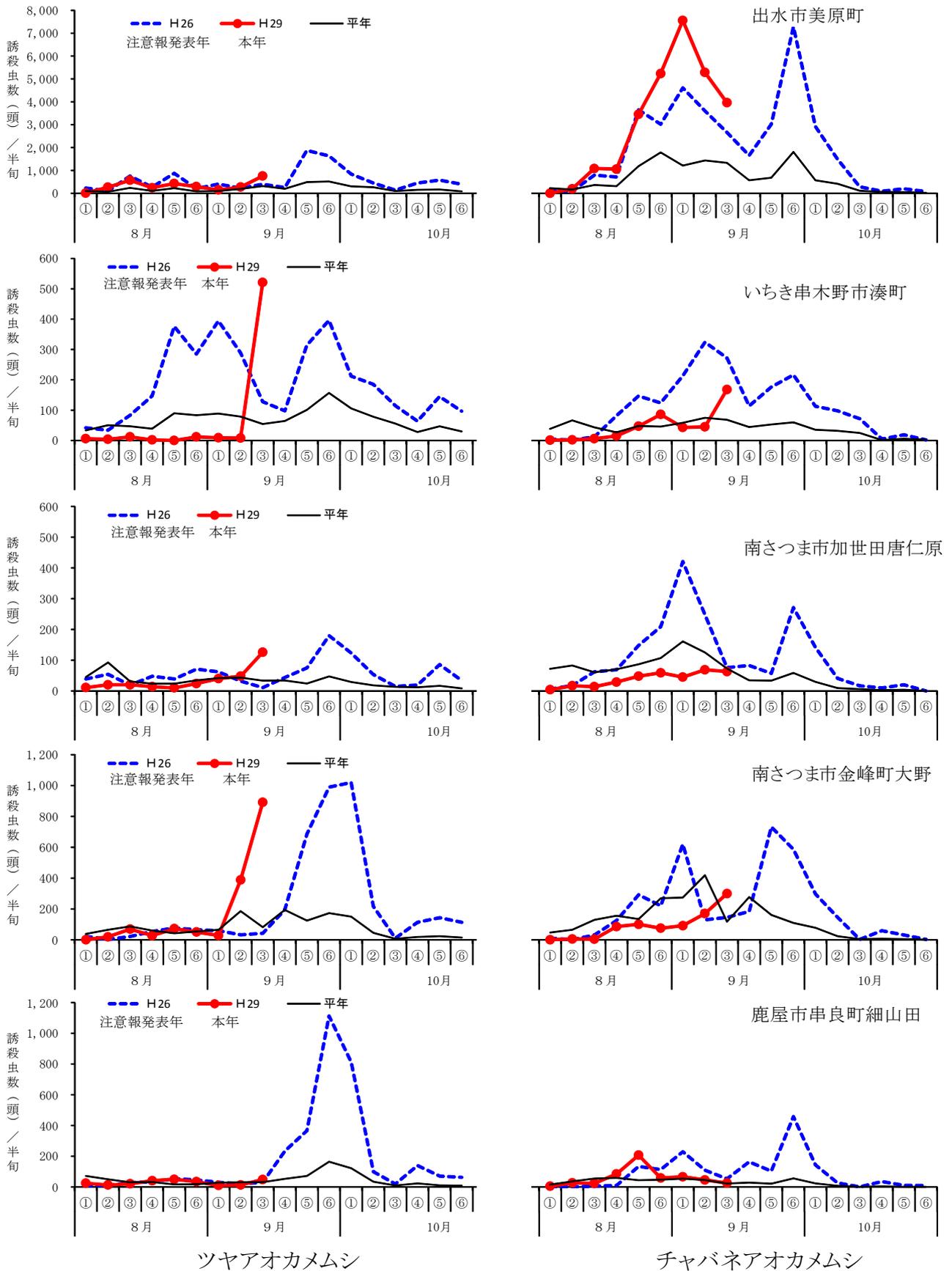
鹿児島県病虫害防除所長

平成29年度 病虫害発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

## 病虫害発生予察 注意報第2号

- 1 農作物名** カンキツ, ナシ, カキ
- 2 病虫害名** 果樹カメムシ類（ツヤアオカメムシ, チャバネアオカメムシ）
- 3 予報内容**
  - （1）発生地域 県本土
  - （2）発生量 多
- 4 注意報発令の根拠**
  - （1）予察灯の誘殺虫数は、過去の多発年（注意報発表年H26）と同様に多い。特に9月第3半旬には、これまで多かった出水市だけでなく各地域でも増加した（図1）。
  - （2）ヒノキの調査では、寄生虫数が9月に入り各地域で増加している（図2上）。また、餌になる球果の劣化（口針鞘数の増加）が進んでいる（図2下）。
  - （3）平成26年と本年を比較すると、ヒノキでの寄生虫数（成虫）はツヤアオカメムシがやや多く、チャバネアオカメムシは同程度に推移している（図3）。
  - （4）出水市、いちき串木野市、霧島市では、果樹園で飛来がみられる地点があり、一部で加害も認められている。
  - （5）本年は餌となるスギ・ヒノキの着果量が多い傾向だが、台風等で落果すると、果樹園へ飛来する可能性があるので注意する。
- 5 防除上注意すべき事項**
  - （1）果樹カメムシ類の飛来は地域間差、ほ場間差があるため、園内外をよく見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。特に、収穫期を迎えている極早生温州、ナシ、カキでは注意する。
  - （2）飛来を認めた場合、一回目の防除は残効の長い合成ピレスロイド系薬剤またはネオニコチノイド系薬剤を選択する。合成ピレスロイド系薬剤は、ミカンハダニの発生を助長するので、散布後の発生に注意する。
  - （3）防除にあたっては、防除薬剤の使用回数や使用時期を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。



ツヤアオカメムシ

チャバネアオカメムシ

図1 予察灯での果樹カメムシ類の誘殺虫数の推移

注) 平年：南さつま市金峰町、鹿屋市：過去10年間、他は過去6年間の平均値。

捕虫方法：南さつま市金峰町100w水銀灯、鹿屋市 補虫用蛍光灯と白色蛍光灯（20W）を併設、他は40W捕虫灯

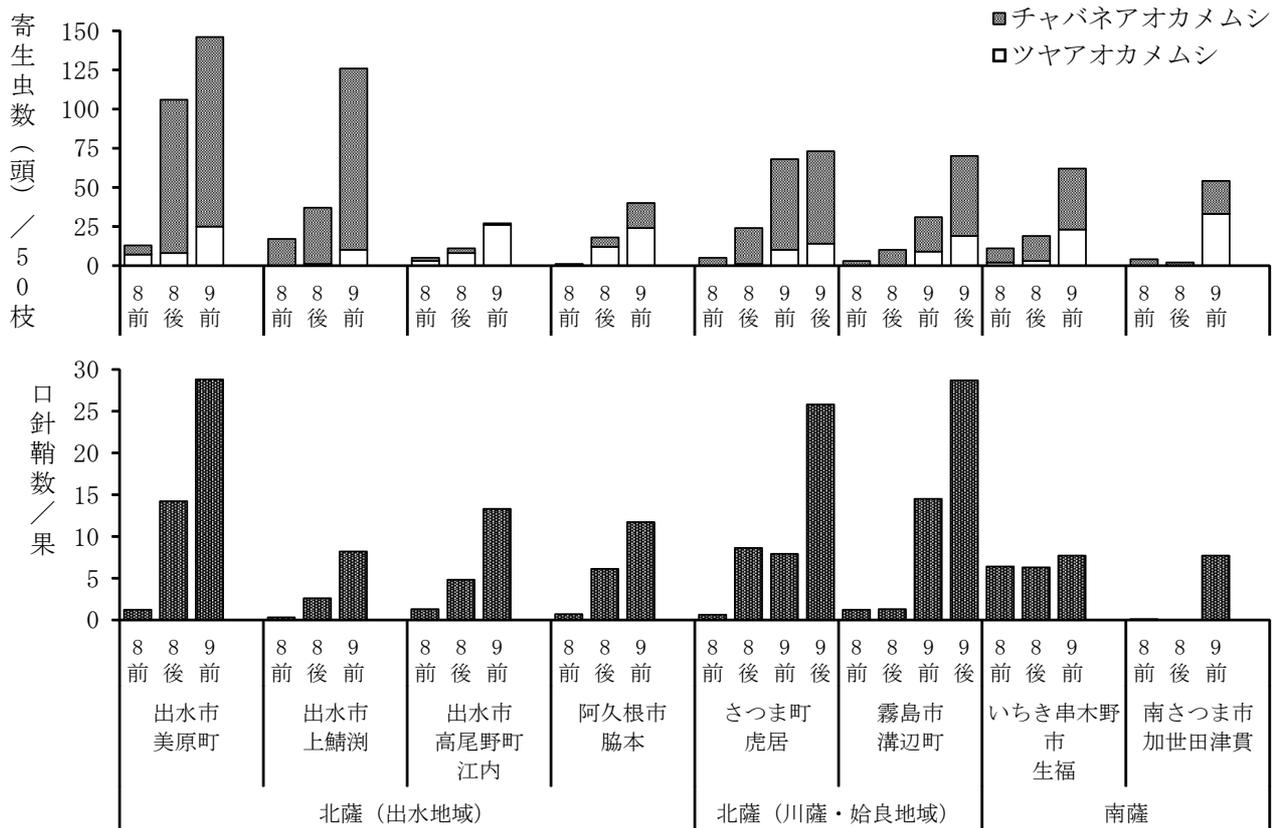


図2 ヒノキの果樹カメムシ類の寄生虫数（上）とヒノキ球果の口針鞘数（下）

注) 調査は、8月前期（8月2～8日）、8月後期（8月17～24日）、9月前期（9月4～6日）、9月後期（9月14～15日）。寄生虫数は、2種の成虫・幼虫の合計。

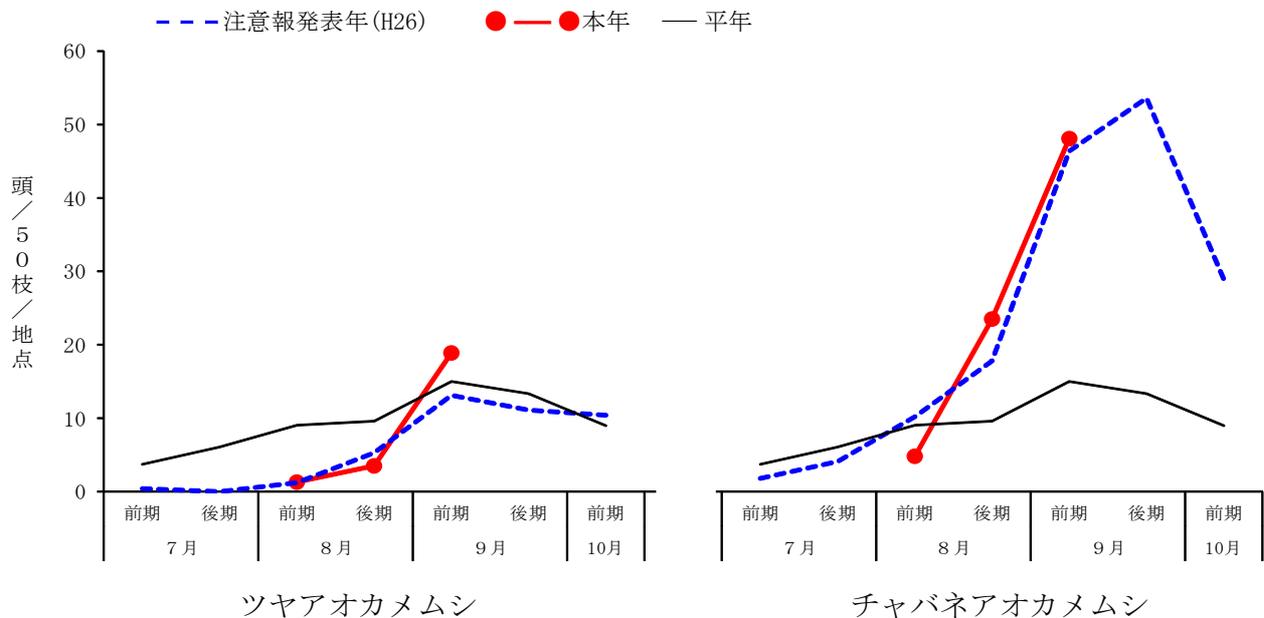


図3 多発年と本年の果樹カメムシ類の餌植物（ヒノキ）での寄生虫数（成虫）

注) 平年は、過去10年間(H19～H28)の平均値(うち注意報発表年4回)。データは各調査地点の平均値